学校図書館だより
2月号

令和4年2月
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
岩瀬　瞳

　立春を過ぎ，暦の上では春ですが，古くは2月のことを如月（きさらぎ）「衣更着（衣を更に重ねて着る）」と表していたように，一年で最も寒い時期です。冷たい風に身を縮めたくなりますが，周りをよく見てみると太陽の光は明るくなり，梅の枝にも花が開き始めています。厳しい季節を越えて訪れる春の歓びをたくさん見つけたいですね。図書館に所蔵されている様々な本も，みなさんが見つけてくれることを心待ちにしていますよ。

図書委員会企画・先生のおすすめ本

　図書委員会の企画で，先生方から富中のみなさんへおすすめする本を紹介してもらっています。放送委員会の協力のもと，お昼の放送で紹介しています。紹介していただいた本の多くは，図書館に所蔵している本です。ぜひ読みに来てくださいね。
　先生方からのおすすめメッセージは図書館前の廊下にも掲示してあります。本を通して先生方の新たな一面やみなさんへのメッセージをどうぞ受け取ってください。

今月のおすすめ本

テーマは「自分自身で知る」　※「ライブラリーサーチ」の紹介文を一部引用しています。

『きみの体は何者か』
伊藤亜紗 著　筑摩書房〈NDC496〉

　緊張で体が固まったり言葉が出なかったり。そう，体は思い通りにならない。でも体にだって言い分はある。しゃべること歩くことがどんなに大変か私たちは知らない。さあ体の声に耳をすまそう。
　著者の伊藤亜紗さんは，自分自身の吃音という「思い通りにならない体」の声に耳を傾け，思いがけない発見や出会いをしたといいます。よく考えてみると，誰にとっても体は自分のものでありながら，自分のものでないような，思い通りにはならないもの。体の声に耳をすませば，思いがけない発見が待っている！きっと体が好きになる14歳からの身体論。

『みどりのゆび』
モーリス・ドリュオン 著　安東次男 訳岩波書店〈NDC953〉

　裕福な家庭で何不自由なく育ったチト少年。かれの親指にはとても不思議な力がありました。その手にふれた種を芽吹かせ，花を咲かせる「みどりのゆび」を持っていたのです。何かを知るたびにチトが抱く疑問は，とてもシンプルで根源的です。悲しみや貧しさ，苦しさを知るたびに，チトは自分の考えを実行し，町中に花を咲かせます。あるとき戦争のニュースが伝えられ，お父さんが武器工場を経営していることを知ったチトは一大決心をして……。

『青い鳥』
メーテルリンク 著　末松氷海子　訳
岩波書店〈NDC952〉

　貧しいきこりの子どもチルチルとミチルは，「幸福」の象徴である「青い鳥」をさがして，思い出の国や夜の御殿，未来の国などを旅します。ノーベル賞作家による有名な戯曲。
　作者のメーテルリンクは昆虫や花の美しく緻密な観察記録も書いています。自然を知り，幸福とは何かを知る時，世界はどのように見えるのでしょうか。

学校図書館からのお知らせ

★不明本を探しています
　蔵書点検で確認できなかった本があります。富勢中学校のバーコードのついた本を見つけたら，図書館まで持ってきてください。

★図書館で借りた本の読書記録を知りたい人は図書館指導員までお知らせください。